

JELA NEWS

ジェラニュース 第55号

2021年8月15日 発行

発行責任者 渡辺 薫

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・ブレカリア（祈りのたて琴）／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。（マタイによる福音書25章35～36、40節）



いよいよ財団法人へ

この号にはこんな記事が……

特集：JELAの歴史と歩み（P2～4）／法人移行のご案内（P5）／オンライン・チャリティコンサート2021（P6）／カンボジアワークキャンプ中止と新しい国内Englishキャンプのお知らせ（P6）／インド緊急コロナ対策支援：CRHP（マハラシュトラ州）医療対策支援、LWSIT（コルカタ）女児支援（P7）／川柳ひろば（P8）／寄付者一覧（P8）／編集後記（P8）

時代を超えて受け継がれるミッション・スピリット 知れば知るほど深い「JELA」の歩み

JELA（日本福音ルーテル社団）は、社団としての112年に渡る歴史の新たな展開として、2021年9月1日をもって財団として再スタートすることが計画されています。ここで、皆さんと一緒に明治時代までタイムスリップして、JELA創設から現在までの歴史を振り返ってみたいと思います。

※本稿は、本紙第15～31号に掲載された長尾博吉牧師（元JELA常務理事）の「JELA歴史コラム」を事務局で再構成し、加筆編集したものです。

起 社団設立

JELAの前身は、1909年6月21日に日本の法人として設立された「在日本アメリカ合衆国南部福音ルーテル教会ユニナイテッド・シノッド宣教師社団」です。その名が示すとおり、アメリカからキリストの福音を伝えるために来日したルーテル教会宣教師による社団法人だったのです。アメリカのルーテル教会による日本宣教は、それからさらに約20年前まで遡る1888年、アメリカ南部一致福音ルーテル教会が日本伝道を決議し、1892年2月にジェームズ・シェーラー宣教師を日本に派遣したことに始まります。

佐賀県立中学校に英語教師として赴任したシェーラー宣教師は、そのかわら、福音宣教の職務にまい進しました。しかし当時、外国人に教会としての使用



シェーラー宣教師

を目的として建物を貸す者はなかなかなく、そのような中で唯一与えられた建物が、地元で「お化け屋敷」の異名で呼ばれていた佐賀市松原町明治橋通78番地の古民家でした。「お化け屋敷」はシェーラー宣教師とその同志によってきれいに改装され、「十字架教会」と名付けられました。1893年4月2日のイースター礼拝が公式な最初の礼拝であったと記録されています。キリスト教が偏見をもって「耶蘇」と呼ばれた時代です。投石や罵声などの迫

害は常にありましたが、それらに屈することなく、十字架教会の働きはやがて市内4カ所の講義所の開設を可能にし、翌年3月には教会設立以降初めての日本人洗礼者も与えられました。その後、続いて来日し宣教活動に加わった宣教師たちの働きが実を結び、宣教の舞台は佐賀から熊本、福岡へと拡大していきました。



宣教師たちとその家族（1913年）

そこで常に課題となったのが、福音宣教の拠点なる教会、宣教師が住むための住宅、このころまでに各地に設立された学校、社会福祉施設等の宣教資産の管理をどのようにするかでした。当時はまだ「宗教法人法」がなかったため、教会が土地建物などの財産を保有する手段がありませんでした。そのため、宣教師たちは、やむなく長老信徒数名の個人名義による共有財産として教会の登記を行いました。しかし、この方法では長老信徒に何かあった場合に、その共有財産が教会とは無関係の者に相続されるというリスクもはらんでいました。一方で、日本政府にとっても、日々流入する外国の宗教をどう取り扱うかは、差し迫った課題であったようです。そこで政府は、外国



宣教師社団の設立許可書

の宗教を便宜的に民法法人として認めることにしました。これを契機とし、1909年（明治42年）6月21日、宣教師たちは「在日本アメリカ合衆国南部福音ルーテル教会ユニナイテッド・シノッド宣教師社団」（以下「宣教師社団」）を社団法人として登記しました。これが、JELAの前身であり、いわばJELAが誕生した瞬間だったのです。



生まれわたる宣教師社団によって創立された九州学院神学部神学生（1913年）

承 激動の時代 ～関東大震災から戦後復興まで～

1923年9月1日、関東大震災が発生しました。同年12月には、宣教師社団は被災者救済のために麻布市兵衛町（現在の港区）のスペイン公使館敷地内にバラックを建設し、母子や老人の救済活動を行いました。1925年、震災の爪痕残る東京へ、熊本の神学校（現・日本ルーテル神学校）が移転された際に、宣教師社団の活動拠点もその敷地内（東京府野方町鷺宮、現東京都中野区）に移されました。佐賀にまかれ、九州各地に収穫をもたらした宣教の種は、以後、東京という飛び地においても確実に根を張ることとなったのです。

しかし、ほどなくしてアメリカとの戦争の足音が聞こえてきます。日米間の緊張が高まる中で、宣教師社団も日本政府から敵対国名を法人名より削除することが求められました。これにより、宣教師社団は1941年、法人名を「日本福音ルーテル社団」（以下「社団」）と改めることになったのです。同年12月8日、真珠湾攻撃により日本は太平洋戦争に突入しました。すでに外国人宣教師は前年に全員が帰国を余

儀なくされ、社団の役員・社員はすべて日本人のみに改変されていました。敵性思想と見なされたキリスト教も、その関係者である社団も、当時の日本社会から指弾を浴びることとなりました。戦争によって、社団は戦火の中でその資産の多くを失っただけでなく、宣教拠点の多くも焼失してしまいました。

敗戦の喪失感に打ちのめされた日本に再びアメリカのルーテル教会（北米一致ルーテル教会）から宣教師が派遣されたのは、終戦からわずか1年後の1946年夏のことでした。ミラー宣教師をはじめとする宣教師団は、多くの損害を受けながらも生き残った社団に、また、敵国として争った者同士がキリストの愛による赦しと和解を経験していることに、神の摂理の御手を見たことでしょう。彼らは、社団の復興に貢献しながら、戦後のキリスト教に追い風が吹いた好機を見事にとらえ、「ルーテル」の名前とキリストの福音を日本各地に復刻させました。



戦後に来日した宣教師たち（1949年）

転 三つの岐路、公益事業の開始

戦後の社団の歩みには、三つの岐路がありました。

一つ目は既存事業の社団からの独立です。1949年から1951年にかけて、公益事業等を行う団体に関する法整備が進みました。ここまで、社団には学校教育事業、社会福祉事業、宣教活動事業がありましたが、これらが新法のもとでそれぞれ新たな学校法人、社会福祉法人、宗教法人として社団から巣立っていくことになったのです。こうして宣教師の活動に関する資産の管理に専従する団体となった社団は、1969年、東京都新宿区百人町の宣教師館に

移転し、宗教法人となった日本福音ルーテル教会との二人三脚の宣教活動を開始しました。教会、音楽ホール、宿泊施設等を内包する市ヶ谷会館の建設にも参画し、社団の事務所も長らく市ヶ谷会館内に置かれることとなりました。



社団事務局が置かれていた市ヶ谷会館

そうした中で、社団は第二の岐路に立つことになります。1984年、外務省から市ヶ谷教会に、イラン難民家族への宿泊場所・支援金支給等の支援の相談がありました。ところが、国が一宗教法人に支援事業の依頼をすることはできないという問題が挙がったのです。そこで白羽の矢が立ったのが社団でした。こうして社団の難民支援事業が開始され、これが社団にとって法人



板橋JELAハウス（建て替え前）



江戸川JELAハウス

分立後初めての公益事業となりました。当初の社団の役割は、主に難民認定申請者の生活面の経済的サポートでした。しかし、政府機関や難民支援関連NGOとの協議を繰り返す中で、難民（申請者含む）に一時滞在用シェルターを提供し彼らの心の平安に貢献することが社団の使命であるとの認識に至ったのです。こうして、1989年に板橋区に購入したアパートを整備し、1991年に民間初となる難民シェルター「JELAハウス」を運営することになったのです。その後、難民支援事業は、2011年の「JELAハウス2」（江戸川区）の開設、2019年の「JELAハウス」（板橋区）の建て替え・リニューアルオープン（女性専用のシェアハウス型のシェルターとして）、2020年のUNHCR（国連難民高等弁務官）駐日事務所との共同事業である難民専門学校教育プログラム（RVEP）開始など、「キリストの愛をもって助けを必要とする人びとに仕える」という社団のミッションステートメントの軌道から外れることなく、現在も日本の難民支援において重要な役割を果たし続けています。（次ページへ続く）



板橋JELAハウス（建て替え後）

「JELAの思い出」を教えてください……JELAが財団移行という節目を迎えるにあたり、読者の皆様から「JELAの思い出」を募集します！ ワークキャンプやボランティアに参加した体験、JELAを通してご支援くださったご感想、宣教師の先生方のエピソードなど、皆様のJELAにまつわる思い出をぜひお寄せください。お寄せくださった文章は、ブログ等で紹介させていただく場合があります。投稿は以下までお願いいたします。（すべての文章が紹介されない場合もありますので、ご了承ください。）

メール：jela@jela.or.jp FAX：03-3447-1523 郵便：〒150-0013 渋谷区恵比寿1-20-26 JELA「思い出」係

(P 3の続き)

第三の岐路は、1990年代末から海外の貧困層の子どもたちの支援を中心に多くの公益事業を開始したことです。社団はルーテル教会の信徒によって発足した「ブラジルのストリートチルドレンを支える会」の働きを1999年に引き継いで、「ブラジルディアコニア活動支援プロジェクト」「ブラジル・プロジェクト委員会」などの働きを通して、20年に渡り、日本福音ルーテル教会とともに現地の日系教会等の活動を支えました。

続いて、2001年に給付型奨学金事業と米国ワークキャンプ事業を、2005年にインドワークキャンプ事業を、2007年にはカンボジアワークキャンプ事業を開始しました。現時点までで奨学金受給者は延べ115人、ワークキャンプの参加者は延べ306人に上ります。海外の子どもたちの医療や教育を支援する「世界の子ども支援事業」が始まったのもこの時期です。2003年にインドの子ども医療への支援を外務省とともに行ったことを皮切りに、2009年からはルーテル世界連盟(LWF)に協力する形で、継続的な支援国をカンボジア、バングラデシュ、インド(コルカタ)へと広げていきました。インドとカンボジアへの支援は現在も続いており、特にカンボジアに関しては、2012年以来毎年継続しているプレスクールの建



JELAが支援したブラジル日系人教会の一つ「南米教会」(サンパウロ市)



JELAが提供した医療機器の使い方を日本人医師から学ぶインドの医療従事者たち

設、外務省のODAによる給水塔建設の支援、大手電機機器メーカーのCSR協力など、社団の公益事業の根幹を成す事業の一つとなっています。2006年に開始されたキャロル・サック宣教師による「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」もハーブと祈りという日本における「看取り」の新しい形を提案する働きとして、2018年の講座終了まで社団の主要な事業の一つであり続けました。

結 第四の岐路 ～「JELA」の愛称とともに歩む未来～

「日本福音ルーテル社団」が「JELA(ジェラ)」の愛称で呼ばれるようになってから30年余りが経ちます。1909年に、米国のルーテル教会による日本の福音宣教の担い手として誕生したJELAは今、第四の岐路に立っています。冒頭にお伝えした、一般財団法人としての再スタートがそれにあたります。一般財団法人としてのJELAの新たな歩みは、社団時代のすべての宣教師たちの思い、歴史、同労者であった人々を資産として引き継ぐものとなります。社団で行われてきた事業を、1) 難民支援事業、2) 世界の子ども支援事業、3) 奉仕者育成事業を3つの柱として再編成し、さらなる充実を図ります。また、国内外で自然災害が頻発することへの対応として、緊急災害支援も継続して行っており、



「水プロジェクト」で建設された給水塔によって水道供給を受けられるようになった家族



病床にある人のために祈りの音楽を奏でるリラ・プレカリア研修生

JELAの第四の岐路の先にあるのは、より広い世界との繋がりで。 「キリストの愛をもって助けを必要とする人びとに仕える」というJELAの使命に共感してくださる方が一人でも多く起こされ、JELAの公益事業を通してその使命の実践に参加してくださることを心から願っています。

2004年に東京都渋谷区恵比寿に「JELAミッションセンター」を建設し、市ヶ谷会館から事務所を移して以来、その1階ホールにあるステンドグラスがJELAの使命を雄弁に語り続けています。そのモチーフは、本紙の表紙にも掲げられているマタイによる福音書25章35～40節によります。愛の実践に大きな犠牲を伴うような時代が来た時でさえも、自らが気づかぬうちにこの聖句に従っている、そのような霊的感性や瞬発力をもつ社会への奉仕者を輩出することが、JELAという愛称とともに歩む未来につなげる日本福音ルーテル社団の財産です。

ぜひ一度、「JELAミッションセンター」のステンドグラスを鑑賞しにセンターまで遊びにいらしてください。職員一同、皆様のお越しをお待ちしております。

※新型コロナウイルス感染予防のため、現在は時間、職員数を限定して事務所を運営しております。ご訪問をご希望の際はJELA事務局まで事前にお問い合わせ下さい。



アメリカ・ワークキャンプで家屋修繕のボランティアに従事する参加者



インドワークキャンプで義足作りのボランティアに従事する参加者



一般社団法人 日本福音ルーテル社団 財団法人移行のお知らせ

JELAは、本紙2～4ページにもご紹介した、112年の「社団」としての歴史にピリオドを打ち、2021年9月1日から新しく「財団」として歩みだします(8月28日の社員総会にて最終承認予定)。

明治時代の日本宣教開始期や第二次世界大戦後の復興期など、宣教における数々の試練の度に、米国のルーテル教会から捧げられた多くの祈りと献金とその窮地を救ってきました。財団としてJELAが目指すものは、これら霊的・財的遺産のよき管理者を務めながら、これからもますます、助けを必要とする人びとのために、キリストの愛をもって仕えていくということです。そして、神が愛のお方であることが一人でも多くの人に伝わることに、私たちのゴールがあります。これからのJELAの働きを近くで見守り、また、同労者としてこの働きに加わってくださいませんか。

JELAでは、1か月あたり100円以下の金額から定期的・継続的にお支払いいただけるように、寄付者の方に以下の選択肢からお選びいただける寄付システムを開始いたしました。

- ① 年1回の定期寄付：1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円、50,000円
- ② 月1回の定期寄付：1,000円、2,000円、3,000円、5,000円、10,000円
- ③ ワンタイム寄付：「難民支援事業のために」「カンボジアの水プロジェクトのために」など、特定の事業・プロジェクトへの1回かぎりの寄付。

①・②をお選びいただいた寄付者の方には、「JELAサポーター」として以下の特典をご用意しております。

- ・JELA主催の有料のセミナー、イベントの参加費割引
- ・定期的なJELAサポーターの集い・意見交換会へのご招待
- ・事業報告書の送付

ご寄付に関する詳しい情報については、9月1日以降に、JELAのウェブサイトをご覧ください。
<https://www.jela.or.jp/> (従来と同じ)

なおJELA事務局の住所・電話番号などのお問い合わせ先に変更はありません。

財団として歩み始めるJELAをどうぞお支えください。皆様のお祈りと働きへのご参加に感謝いたします。



ぜひJELAミッションセンターへお越しいただき、マタイによる福音書25章から採られたJELAのモットーを表すステンドグラスをご観覧ください。(ご訪問を希望される方は、事前に日程をご相談ください。)



カンボジア・ワークキャンプ2022の中止と 新しい「国内Englishキャンプ」について

JELAでは、毎年開催のアメリカ・ワークキャンプ、隔年開催のインド・ワークキャンプ、カンボジア・ワークキャンプと3種類のワークキャンプを実施してきましたが、新型コロナウイルスの世界的な流行により、昨年カンボジア・ワークキャンプを最後に全てのキャンプを中止しています。

2022年2月に予定していたカンボジア・ワークキャンプも中止することとなりました。楽しみにしていた皆さまにはお詫び申し上げます。

JELAのワークキャンプは10日間以上



アンコール・ワット (カンボジア・シェムリアップ州)



アジア学院で飼育されているヤギ

の日程が多く、長期で休みを取れる成人の方、大学生の方々にご参加いただいていたいました。新型コロナウイルス流行の長期化によって、本来ならばキャンプに参加できたであろう方々の貴重な機会が奪われてしまっていることは、JELAとしても歯がゆく非常に残念なことです。

そこで、JELAは2022年の夏、那須高原のアジア学院 (ARI) を会場に、新しい形のキャンプを開催することを計画しています。アジア学院は世界中の国々から研修生が集まるため、英語が共通語と

して用いられている、とても国際色豊かな学校です。また有機農業や畜産を学ぶ学校であるため、大自然の中での農業体験 (ワーク) もあります。国内にいながらにして、JELAのワークキャンプのエッセンスを詰め込んだ「国内Englishキャンプ」のプログラムを実現できるよう、ただいまスタッフが知恵を出し合いながら計画しています。

次号、もしくはJELAホームページ、JELAのSNSで詳細をお伝えできると思っています。続報を楽しみにお待ちいただければ幸いです。

JELAワークキャンプ オンライン同窓会2021

8月下旬の開催を予定しています！

過去のワークキャンプ (アメリカ・インド・カンボジア) に参加した皆さんはもちろん、キャンプには未参加だけど興味がある、という方も大歓迎です。

日時等の詳細はJELAのウェブサイト・ブログ・SNSをチェック！

2021→2022 クリスマス&ニューイヤー オンライン・チャリティコンサートのお知らせ

昨年末から年始にかけて皆さまにご好評をいただいた、JELAの「クリスマス & ニューイヤー オンライン・チャリティコンサート」を今年も開催いたします。

第一弾は11月27日 (土) 正午より、ピアニストの松井花枝さんにご出演いただきます。松井さんは昨年に引き続き2回目の登場になります。

松井さんからのメッセージをご紹介します。

「本年も演奏を通して繋がれますことを、とても嬉しく思っております。この度はどのような映像とプログラム

で美しいピアノ音楽の世界へ皆様をお連れ出来るかと、今からイメージをしつつ考えております。心豊かなアドベントシーズンを、一緒に音楽と共に迎えましょう！」

JELAのオンライン・チャリティコンサートは、ご自宅に居ながらにして皆様に本格的な音楽やパフォーマンスをお届けできるコロナ禍で生まれた取り組みです。ぜひJELAのYouTubeチャンネルへのご登録と、当日のご視聴をお願いいたします。

クリスマスから新年までの公開スケジュールは12月号の本紙、ホーム

ページなどで随時ご案内してまいります。楽しみにお待ちください！



松井花枝さん

JELA
YouTubeチャンネル
アクセス方法

YouTubeで
検索

JELA チャンネル

または
QRコード



インド緊急コロナ対策支援 マハラシュトラ州の病院とコルカタの子ども達のために

JELA は、インドのパートナー団体である CRHP (Comprehensive Rural Health Project) と LWSIT (Lutheran World Service India Trust) が実施している新型コロナウイルス (COVID-19) 対策のために緊急支援を行いました。

◆CRHPへの支援

CRHPは、インド中部のマハラシュトラ州ジャムケットという町で、病院を中心とした医療支援を通じて地域の貧困層を支えています。CRHP代表のショーバ・アロレ医師と弟のラヴィ・アロレ氏から、コロナ禍で病院の新型コロナウイルス対策により医療資源が逼迫していると連絡がありました。これを受けてJELAは、4,500米ドル (約50万円) の支援金を提供しました。

JELAは二年に一度、CRHPを拠点としてインドワークキャンプを実施していますが、今年はコロナ禍の影響で中止となりました。JELAでは一日も早く、新型コロナウイルスが終息して日常が戻るようにと願っています。



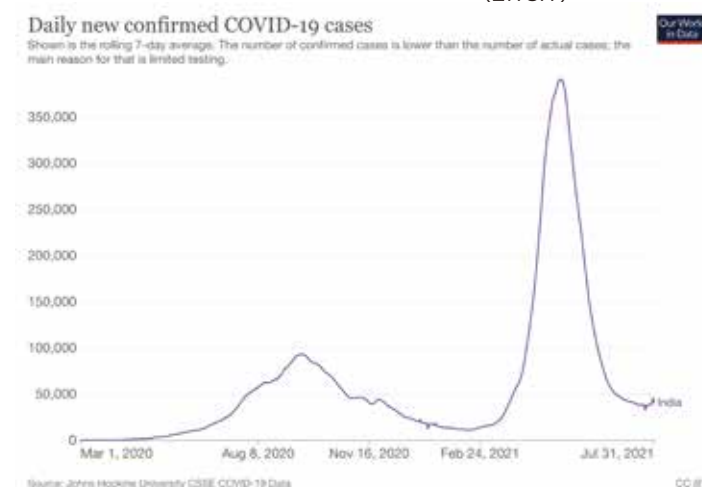
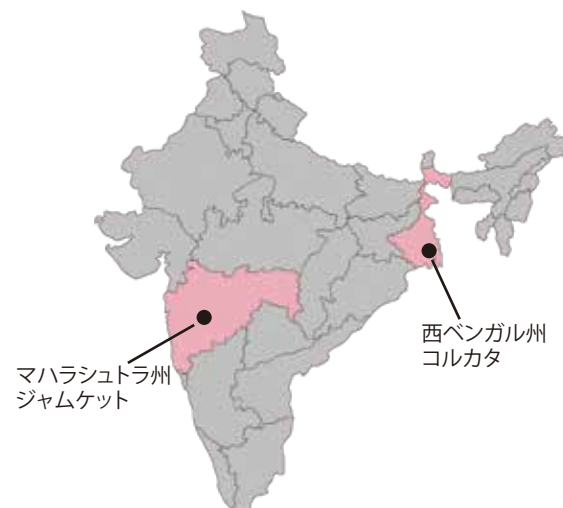
患者の治療にあたる医療関係者 (CRHP)



患者増加に対応するための仮設テント (CRHP)



食料と衛生キット等の支援を受ける子どもと家族 (LWSIT)



インドの1日あたり新規感染者数 (出典: Our World in Data)

第15回川柳ひろば 入選句発表!

次の3句が選ばれました(柏木哲夫選)。
柳名「とんちゃん」さんの作品が最優秀句
に選ばれました。キリスト教的な作品や時
事的な話題を取り入れた作品など、ユニークな作品が多く寄せられました。



入選した皆さん、おめでとうございます! 柏木哲夫氏

<最優秀句>

巣籠もりが出不精となり引き込もる

(とんちゃん)

<優秀句>

この顔は見覚えのある顔おっ家内

(うな太郎)

まだ我慢孫の成長画面越し

(からくさるり)

以下のような佳作もありました。(川柳ひろば管理人
選、柳名略。)

- ◇ パン作り人生学ぶ二次発酵
- ◇ 客無しオリンピックは皆無観
- ◇ 天国へ行くまで地上でテレワーク
- ◇ キャッシュレス鞆にかさばる充電器
- ◇ 鬼の字を子供に教わる好々爺

「川柳ひろば」では作品を随時募集しています。件名に
「川柳ひろば」とご明記のうえ、JELA事務局へEメール
または郵便(アドレス・住所は当ページ右下参照)で
ご投句ください。皆様の作品をお待ちしております。

(川柳ひろば管理人 奈良部慎平)

支援者一覧

(2021年2月1日～5月31日)

(順不同・敬称略)

青木孝士/秋吉恵子/安藤淑子/飯田和子/池田哲也/石井千賀子/石澤
とし子/石橋玲子/井藤育子/犬飼通之/後田富久子/太田立男/大嶺
愛持・裸覇武・十六夜/小幡正/柿沢純江/金子佐年/倉知延章/小泉
小枝/小坂敦子/小島拓人/古庄理世/小松由美/小丸吉展/佐々木
裕子/佐野友美/杉浦りえ/杉山美紀子/高橋ふく子/高橋要子/高橋
竜太/田山かほる/中川浩之/中山玲子/西村久仁子/ニッフェルスみ子/
野田千恵子/野村君代/原島博/古川文江/保坂和子/マイケル・
ピースカー/光延和賀子/南節子/南谷なほみ/森保宏/森下真樹/八坂
由貴子/安みぎわ/山県順子/山本了/良知智子/若原奇美子/和田義子/
渡辺聡/JELC玉名教会

ご支援ありがとうございます。
匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせ下さい。

Follow us!



@jela.workcamp



@jelamission



@jelamission



@431dlnf

編集後記

ところで、聖書の申命記を読んでいると、神がいかに綿密な弱者保護の規定をイスラエルの民に与えていたかが分かります。そこに記された諸規定は、神の聖・義・愛なる性質がそのまま反映されたものですが、私たちの周りの助けを必要としている人への配慮と行動についても多く記されています。すべての人は神の「かたち」にひとしく創造されているので、もし恵まれない立場に置かれた人がいるならば、その人が普通の生活に戻れるように助けることを神は私たちに期待している、それが現代を生きる私たちへの適用となるでしょう。私たち一人ひとりも人生を通じて様々な試練に直面します。そこに神の守りを見、試練もそこからの回復も神からの「特権」であったととらえられた時、今試練の中にある人々に仕えるという「使命」もまた「特権」の行使という喜びとなり、自らの時間やエネルギー、経済力を捧げる原動力となるのだと思います。JELAは明治時代、戦前戦後の日本宣教の試練をくぐりぬけ存続したという、宣教師たちの「特権」と「使命」を受け継いでいます。法人格を社団から財団に転換するという変化の時は、この「特権」と「使命」を覚え、助けを必要とする隣人に仕える団体であるための不可避の道であったと今思うのです。(渡辺薫)



国連で合意された17のグローバル世界共通の目標を「SDGs(Sustainable Development Goals: エスディー・ジーズ)」といいます。JELAはSDGsに賛同し、よりよい国際社会の実現に貢献しています。

JELAの活動にご支援を!
各種献金のご送金は下記をご利用ください。



ホームページからクレジットカードでご寄付いただけます!

JELA

Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人 日本福音ルーテル社団
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26
Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523
Email: jela@jela.or.jp
HP: https://www.jela.or.jp/
郵便振替口座番号: 00140-0-669206
加入者名: 一般社団法人日本福音ルーテル社団